

繪本 豐臣勲功記

五編

八





繪本豊臣勲功記五編卷之八

目録

先俊あきとし親おや信のぶ奉ほう匠じやう大おほ匠じやう首くび

属まが攻こう二に條じやう城じやう

信忠のぶただ卿きやう所しよ最さい期き二に條じやう落らく城じやう

属まが諸しよ士し死し

光秀入妙心寺料理万端

属安土落城

細川又子全義不勦光秀

属忠興去妻



繪本豊臣勲功記五編卷之八

櫻澤堂山編輯



光秀親信奉匿大臣河首属政二條城

誰が通るも。行車輪ふ始終をしと。轉行車は始終ありあがり。現る
目に始終をばさる。條の能もさるものも人因中果あり。果中まこ
因成生を死行車の始終をさしに似たまどを其始終ありと考期せざ
るハ智ありて無ハ猶若きり。茲ハ勝まきく。漢揚らる此名士あり。別人
みり。明智左馬助光俊あり。然不之ハ本林寺の河孫館ハ哀き一圓
以讀大とかりて。熾く爆くと燃上る。進まハ各先伐争ひ。烟を渡さ大を
踐で。信長公の河首を河人と稱せ。そのみふも。細川金右衛門遠達ハ河
座の廳に幽宮て。爛散たる火を掃除。右大臣の河首を刺まぬを被る。

白後... 大將... 光秀... 足下... 阿彌陀寺... 御首... 足下... 阿彌陀寺... 御首... 足下... 阿彌陀寺... 御首...

白後の衣は袖を牽列致さるる事。單て這隊の大將光後の衣へ進入し。
九馬助それとつらなり。遠く馬より詭却。身を懐人々觀をせしむるに遠
ふくむるに大長殿の御首をたれば。聲を濡れし並川に謂ふる。足下勢て
刀火を侵し。大長殿の御首を得しむる事。今日此地名隨一なり。唯深く慮ふ思
材のあはば。足下の功第一なり。遠御首を匿し、たぐ存せざるれば。狂く光
後と通与らば。いと。謂も果ぬ。並河息耗。斯ハ副將。不具一言。九首はも
せよ。幸ふと。一捉え。御首を匿すと。他の誓を妬むる。自ら他借ふ。乃ち血
を淋ぎ。肉伐削て殺し。唯遠敵を看んたり。我をいふる。詳あるはも
せよ。遠敵をもて匿さん。最恨めしき事なり。と腹を合へて言敷く。に。
光後莞尔とらち笑ひ。並川氏を怒む。其作態人掃徳人。知
る如く。至人光秀。大長殿。最御首に恨を屢積る。成をく。止と。成は

謀叛を跋企終し。合戦の合日に登び。鬼神と呼をれ。大將を斯のご
く撃たてまつり。積恨をく報ふ。足下。然る。今此御首をく。て日
向方に。足下を。懐怒は。堪ふ。御首に。朝。或ハ罵。或ハ。是も
て。情も。ぬ。愈々。い。ある。恨。ある。も。せ。位。長。公。これ。君。天。
是。成。愈。ま。ご。らん。足下。光秀。に。忠。義。を。存。する。意。あり。唯。遠。敵。に。深。く
匿し。光秀。い。ふ。需。む。る。も。大。中。に。亡し。失。つ。と。謂。ふ。七。切。目。向。守。分。
罪。を。贖。ふ。忠。義。に。餘。慶。これ。は。起。る。もの。ある。と。真。儀。を。り。つ。つ。洗。着。な。れ
は。急。懸。免。り。金。右。衛。門。も。落。涙。する。中。で。威。服。し。遂。に。光。後。が。洞。に。如。く
御首を濡く。懸して。石。潜。り。處。て。阿彌陀寺の。面。答。上人の。侍。へ。愧。り。これ。を
葬。り。し。そ。ま。り。ぬ。繪。ふ。左。馬。助。が。深。慮。の。よ。ど。切。り。し。と。稱。讃。し。ぬ。備。も。大
將。光。秀。ハ。大。長。殿。の。御。首。に。見。え。と。さ。く。急。懸。こと。濡。り。かく。亦。是。月。夜。合。戦

豊臣記五編卷之八

一



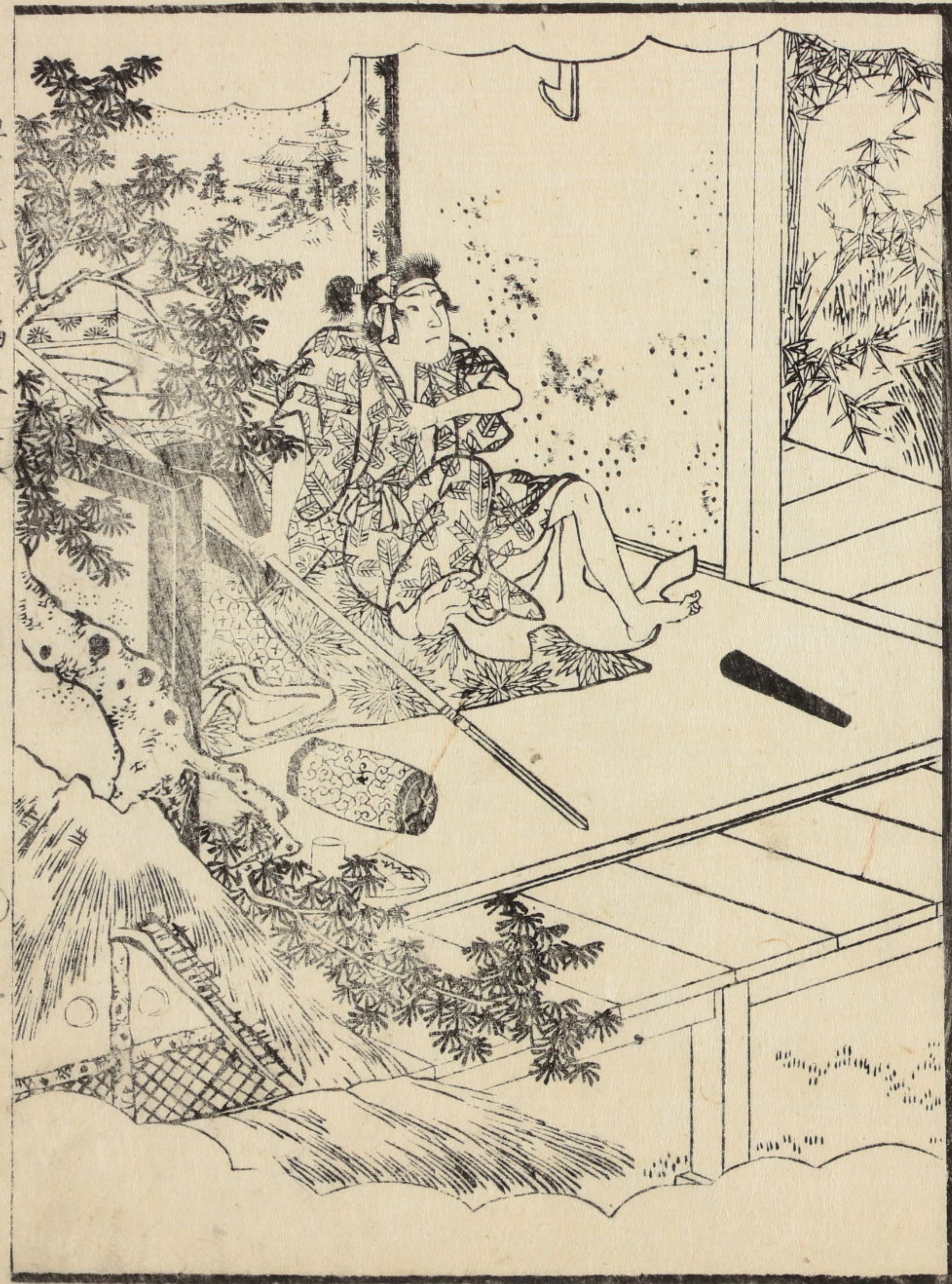
豊臣記五巻之八



豊臣記五巻之八

はくそして。存び河首代搜さうむるを。先後病は内務介を招侍せ河首
を解せし信義を諸れば。是も奇しく威佩して其意に同し相討りて。
河首を單に白旗の焼残りたる隻袖を日向守と承ふをて也。河首の心
小搜せども。近士尾従の深く躲しほるもの。骸屍を三人中目を僅し火
畔の水あるところ。小右大臣の常衣の隻袖鮮血は泥まじりありたるなり
と見出を日向守。膝断しは見過たりしが。聴て河袖を弓手に捕ま血走る
中では眼を瞑らじ。あまりに焦胸て言向もあく。戒刀を逆手に把持。白旗
の衣を寸反く。裂て放擲と抛着は。その一に背懐をれりと一喝。叫ん
で休むる。内務介見く心の中。先後は深慮を感とり。備味三位中
將信忠卿へ。昨夜酒の下のあら。本姓寺より歸らせむ。二條の城に入
らせられ。その夜は暑気酸たれを。清らふ浴しむ。更閑るを。側源

せき。暁も知して寐ありたるが。本姓寺に事ありと。浴中の喉動漏
が如く。中將これ子孫さむい。先援兵して父君を救ひまかせ。せまららん
と守衛軍を二百と率。後へ馬を鞭うち馳せむ。二條の一字衛を過
んとする。駒所司代村井長門吉。同春長軒の父。同作右衛門尉。長門吉
父子二人。明智が捕調を断く。脱出當り。池津り。中將の馬前。又俊備。洞を
かゝり。四條の方。此烟を指て言状せらる。あま驚をこそ。那夜中。不悲し
や。右府の御生害す。それなる多。那寺。小朝をせむ。とも其甲斐。父をか
る。登れもの。を。杖城中。一途をせむ。途中の交戦。あま。危く。な。と。頻
小勅。め。す。わ。る。を。不。一。妙。覺。寺。の。次。舎。む。い。一。城。回。源。三。弟。務。長。同。又。十。郎。
長利。一。族。九。弟。次。弟。勅。七。郎。楮。子。兵。助。む。ど。つ。一。輩。漸。次。と。小。池。着。て。軍
城。を。也。然。る。と。東。を。ふ。ぞ。信。忠。卿。も。拘。ら。ち。痛。之。四。條。の。方。を。祝。ふ。如。と。



豊臣五七五編巻八

五



梶原松千代
病を冒して
二條の合戦不
趣んとす

豊臣五七五編巻八

五

能く城を新く力及ぶ事と悲哀ふ堪ば勢を逆して二条の
城を容るる左右は織田家恩顧の武士七千餘人馳集り防戦の準備
をなしたる。此時明智軍勢の脚下一は風を起すの猛威雲も登る
獲勇を奮ひ二条の城へ推進す。遠勢威ふや怒まらん。遠城中小押當て
我も人といふ輩いとさくわく。或い安土へ退人と初め。又濃州へ落させり
と。さうす城中拵貯り。其の愚かり光秀が。新中根深き謀叛成
政企君を裁するやとれ者か。坂本守治瀬田唐治ら。そのあ系統の通
門と分撥をわして進退を遮るるべき所留を。惣は迷ひたり。安土へ退
かざして。路より漂流若くはわれ。新兵隊士の子小刑ら。束せし恥辱を
ぐに遁せし。唯遠城ありて我死せんを本意ありと。と温存は宣ひけ
る。城は武家の棟梁とも。あせむるも量ありと。諸勇士感服しそ

まのりぬ。そればかりを氣く區分して。軍城慥とて。あをいへん。思ふ
光秀は勳興せし。その欣。おひひく小落りて。あとお強る。名義の
勇士達僅は八百有餘人。城をりて。牢城を。是も尾羽の佐人。梶原平
左衛門尉が嫡子。松子代といふあり。孝奉は。ふ十三歳ありといふも。
又も方らぬ勇士ありて。信忠郎の所供。上系して在る。京都小
着せし。當夕より。暑邪小犯。これ病外。熱氣を體に積が。如く所傍
小在も。憚りなく。小堀二条の城。の意は。旅舎して。後藥療治。なるこ
あらふ。今朝本統守。二條の城。一大事ありと。駭とて。病の床と
賊破と政起。流梁の鎗を捉人とせし。是路死て。彼他と。光秀。梶原
又も。後此。走り。倚背。松子代。野。呼。昨。病。外
一七起。と。稗。重恩の君。大事を。徒。着て。後。令。遠。身。ハ

信忠とも逆賊明智の陣に遠投先秀が肉を嚼裂人汝喰ひて脊を刺す
 二條の沖に伴信一と斷断を以てまうを以て又右衛門洞を浮
 め仰ひおるふとありといふも暫時所身を養生しつゝ疾病全使あへ
 右忠義を竭しつゝ一命を盡す。大信沖父子あふいで逆賊のいふれされ玉
 ひ二条まで落城をも。沖一族諸所ふおもくせ。相業おんどの要
 と刃張勅せき逆賊を沖退治あることを簡要なれ小信これより沖所へ
 馳着孺子の漢漢を言状し。恐おつし沖身代を法りまう人々を智を
 終らば獲せとらう一編かし七寸まうりの馬牽傍せ跨るまうとえり
 一が雙拍つれて一懸ふ二条の城へ馳参り。洞楯の下小依頼して至人
 松子代始終を詳よ言状しつゝ。機會よくも信忠卿廳近ふおこ
 して聆し。沖威賞演めつゝ。至忠なりと被意ありて洞楯ふまう

か入子自清水柄の沖薙刀を揚り。赤色城をもく敵徒を防ごうとて
 一と沖洞をけりつゝ。又右衛門が身以過分なりと兩拜三拜沖薙刀を推
 戴き面関をく馳出て防我の威を絶せし。驍。くもまう恃信は是
 去帳老死三百人のうち一面を
 一人つゝ又右衛門をりて書記せり

信忠卿沖最期二條陥落属諸士戦死

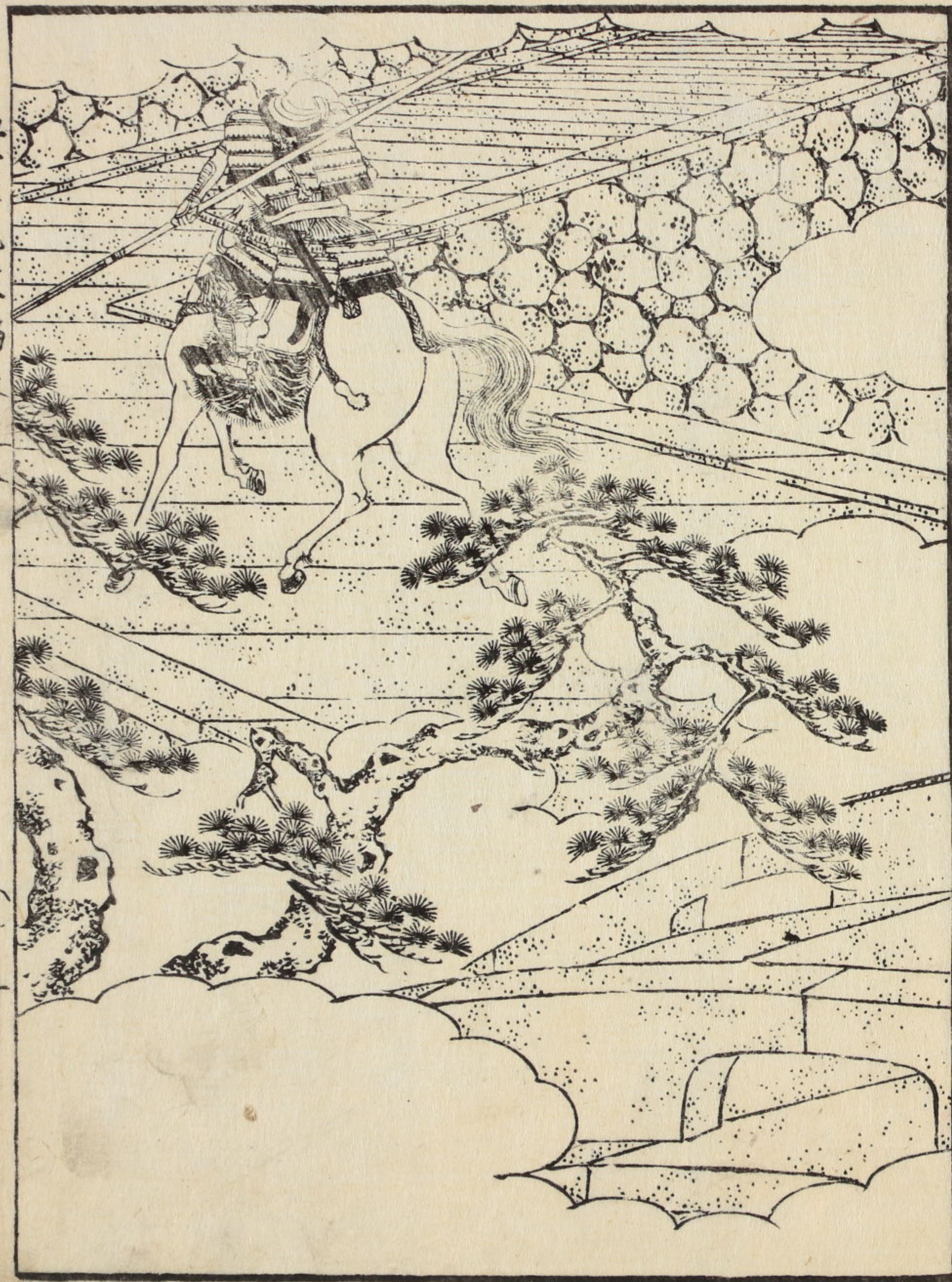
大樹のわがら根深く。古池のうへ。酒をたし。然や二条の城内に防我
 此勇士勢一といふも。金一個をりて千騎を欲する極をかかれ。今歌中
 ふ二条此城の之獨まとも畏る。氣色更ふた。八百餘人をれく。此
 虎口を固めく。後蒐つり。然や不明智日向守先秀の。二子餘務の
 軍勢を治る。先忠小率後をせ。同日午の上刻二条の城へ推進之方
 より一壁稠圍。兵は同音小威を揚り。縁て必死の城中より。威を合も。滿

一、懸連する炮矢を吐く。雨は霰と乱れ、霧を以て、今も忠の武士は
 され。敵は出た。矢も凌ぎ、霧を以て、魁兵數十騎うち散る。遠威に畏れて
 明智方進み、人を見えざるを、治右衛門光忠怒声を發し、蓬き自方の
 舉止を。日本に怖く、右大臣は、唯一時、撃ち、北、東西、兵員、
 八中將殿、すて、二条の遠城、日向守の繩、斬、断、して、築、梅、下、城、廓
 あり、乾隈、坤隅の要、崖、の、哨、より、之、を、視、認、し、り、兵、軍、哨、子、繼、く、登、し、と、
 一、及、より、抽、て、馬、を、跳、ら、せ、進、む、と、爲、す、惟、く、擊、ち、と、く、一、放、の、を、流、筒、音、
 烈、しく、飛、来、り、て、隊、將、治、右、衛、門、光、忠、が、大、神、の、爲、系、り、腹、壺、を、擊、ち、搦、れ、と、
 あ、い、も、堪、え、ず、馬、より、墮、と、轉、び、墜、れ、と、視、る、より、城、門、を、組、と、閉、り、て、二、
 百、餘、人、一、吐、小、城、と、舉、寇、福、富、平、左、衛、門、將、督、九、右、衛、門、元、利、新、助、平、野、勘、
 右、衛、門、進、門、甚、く、奔、回、甚、く、六、部、隊、陰、の、銃、矢、を、突、連、係、續、雷、の、像、く、奮、
 奮、し、四、角、八、面、に、追、起、る、明、智、の、兵、士、大、將、を、擊、ち、勝、落、る、猛、士、に、死、
 横、を、も、つ、突、起、ら、る、瞬、く、際、に、敵、を、斬、り、軍、二、百、餘、人、を、追、ひ、つ、る、が、徳、川、將、
 領、を、も、つ、れ、と、も、崩、起、て、放、走、を、先、秀、に、れ、ふ、り、ち、驚、き、急、に、令、じ、て、四、五、
 天、領、馬、守、と、治、右、衛、門、に、文、代、し、む、あ、ま、し、り、の、り、個、馬、守、政、孝、自、勝、之、百、有、
 餘、人、の、明、智、方、の、兵、士、大、將、今、家、頼、母、光、之、尾、石、与、之、忠、武、臣、田、藤、八、郎、武、
 政、中、澤、遠、酒、助、知、元、母、の、八、百、餘、人、を、一、隊、と、し、各、獲、勇、猛、威、を、振、ひ、
 曳、く、去、り、て、攻、進、す、中、亦、も、大、將、個、馬、守、追、起、ら、る、自、方、と、り、る、より、轉、
 蓋、り、突、起、揚、る、呀、恥、成、知、之、字、の、を、れ、る、城、中、の、敵、を、自、方、に、比、ぶ、れ、ば、
 驗、は、九、半、が、一、毛、なり、か、に、怖、ろ、く、と、進、ま、る、先、哨、取、作、を、鑑、習、よ、と、長、
 戲、の、挿、れ、鳴、痛、む、と、う、ち、う、ち、う、ち、突、投、な、れ、と、徳、軍、あ、ま、し、後、ま、す、と、と、奥、
 叫、ん、と、攻、起、る、遠、極、勢、に、懸、され、崩、起、り、明、智、勢、も、急、に、懸、り、て、後、

一、懸連する炮矢を吐く。雨は霰と乱れ、霧を以て、今も忠の武士は
 され。敵は出た。矢も凌ぎ、霧を以て、魁兵數十騎うち散る。遠威に畏れて
 明智方進み、人を見えざるを、治右衛門光忠怒声を發し、蓬き自方の
 舉止を。日本に怖く、右大臣は、唯一時、撃ち、北、東西、兵員、
 八中將殿、すて、二条の遠城、日向守の繩、斬、断、して、築、梅、下、城、廓
 あり、乾隈、坤隅の要、崖、の、哨、より、之、を、視、認、し、り、兵、軍、哨、子、繼、く、登、し、と、
 一、及、より、抽、て、馬、を、跳、ら、せ、進、む、と、爲、す、惟、く、擊、ち、と、く、一、放、の、を、流、筒、音、
 烈、しく、飛、来、り、て、隊、將、治、右、衛、門、光、忠、が、大、神、の、爲、系、り、腹、壺、を、擊、ち、搦、れ、と、
 あ、い、も、堪、え、ず、馬、より、墮、と、轉、び、墜、れ、と、視、る、より、城、門、を、組、と、閉、り、て、二、
 百、餘、人、一、吐、小、城、と、舉、寇、福、富、平、左、衛、門、將、督、九、右、衛、門、元、利、新、助、平、野、勘、
 右、衛、門、進、門、甚、く、奔、回、甚、く、六、部、隊、陰、の、銃、矢、を、突、連、係、續、雷、の、像、く、奮、
 奮、し、四、角、八、面、に、追、起、る、明、智、の、兵、士、大、將、を、擊、ち、勝、落、る、猛、士、に、死、
 横、を、も、つ、突、起、ら、る、瞬、く、際、に、敵、を、斬、り、軍、二、百、餘、人、を、追、ひ、つ、る、が、徳、川、將、
 領、を、も、つ、れ、と、も、崩、起、て、放、走、を、先、秀、に、れ、ふ、り、ち、驚、き、急、に、令、じ、て、四、五、
 天、領、馬、守、と、治、右、衛、門、に、文、代、し、む、あ、ま、し、り、の、り、個、馬、守、政、孝、自、勝、之、百、有、
 餘、人、の、明、智、方、の、兵、士、大、將、今、家、頼、母、光、之、尾、石、与、之、忠、武、臣、田、藤、八、郎、武、
 政、中、澤、遠、酒、助、知、元、母、の、八、百、餘、人、を、一、隊、と、し、各、獲、勇、猛、威、を、振、ひ、
 曳、く、去、り、て、攻、進、す、中、亦、も、大、將、個、馬、守、追、起、ら、る、自、方、と、り、る、より、轉、
 蓋、り、突、起、揚、る、呀、恥、成、知、之、字、の、を、れ、る、城、中、の、敵、を、自、方、に、比、ぶ、れ、ば、
 驗、は、九、半、が、一、毛、なり、か、に、怖、ろ、く、と、進、ま、る、先、哨、取、作、を、鑑、習、よ、と、長、
 戲、の、挿、れ、鳴、痛、む、と、う、ち、う、ち、う、ち、突、投、な、れ、と、徳、軍、あ、ま、し、後、ま、す、と、と、奥、
 叫、ん、と、攻、起、る、遠、極、勢、に、懸、され、崩、起、り、明、智、勢、も、急、に、懸、り、て、後、

返し一兩軍死活戦禍は追ひ返す一決死しけむ。巴河西方の福富を
 勝つ菅原九太郎。毛利勢助あどい猛士よく我をく毆死し明智方に
 色返り後八角杖生之志あり。今奉頼母中澤遠酒助加奈利清二弟
 百有餘人我死を。之恒中将信忠卿の今生末期の心徹ふ。英くしく
 軍せんとて。細威の鎧も蜀紅紋を細ふけしる復巻し。二十八宿に標
 したる白星繁を龍頭の兜と緋長小被下し。青貝磨の薙刀を銃尖
 あぐりに推拏斜正懸小馬を躍せ激声高く狂出わん。城兵僅六撓
 らふ。城田源二弟。務長因又十弟。長利。同九弟。次弟。同勅七弟。七
 のわら。母着勅。小郎。我智。小十弟。侮。股。此。勇士。二百餘人。唯。おと。し。と
 奮。奮。か。く。縦。を。と。操。と。は。横。を。も。操。と。巴。字。の。通。る。勇。兵。あ。ま。り。巴。字。に。我
 合。猛。士。あり。我。血。汗。を。漂。し。斬。骸。馬。を。も。埋。る。を。り。接。起。と。烈。我。し。を。と。

明智の勇士。城。情。と。祝。く。中。將。敵。の。出。の。ふ。七。噴。毆。果。て。巻。に。せ。んと。馬。我
 連。て。狂。出。た。其。門。く。も。明。智。十。弟。左。衛。門。某。田。源。左。衛。門。某。藤。内。藤。分。儀。は
 百餘人。銃。銃。銘。銘。く。棚。七。萬。里。一。個。も。餘。さ。下。漏。さ。ず。と。金。石。け。疾。打。合。ふ。如
 く。懸。鼓。を。鼓。し。て。我。ふ。わ。ど。ふ。兩。軍。送。に。必。死。れ。勇。士。斬。ぶ。由。棚。と。有。怯。さ。ふ。と。百
 餘。が。十。騎。に。か。り。の。中。も。退。ま。り。と。め。せ。と。撲。返。し。逐。返。し。毆。つ。撃。ま。る。間。ひ
 し。八。烈。し。う。り。々。の。野。見。を。り。雙。方。猛。烈。を。り。と。つ。ご。も。進。去。の。適。う。通。あ
 れ。バ。勇。氣。の。横。を。わ。り。わ。べ。一。城。を。ハ。今。日。を。渡。り。あ。り。て。程。令。重。義。に。寄。り。れ
 ば。濃。出。ま。し。脚。ハ。大。磐。石。より。猶。堅。く。殺。く。若。と。棚。起。た。り。ふ。そ。了。得。不。獲。と。し
 明。智。勢。力。も。凌。儼。よ。な。り。て。着。え。な。れ。バ。棧。ら。は。ま。り。と。三。宅。藤。兵。衛。松。田。太
 弟。を。備。つ。加。治。石。見。と。之。枝。勅。兵。滿。儀。が。六。百。餘。人。暴。隊。を。も。つ。く。横。隊。よ
 里。無。二。無。三。子。突。崩。せ。を。城。を。心。の。孫。息。も。搦。せ。と。暴。隊。の。兵。は。款。し。が。く。



豊臣巴五郎



齋藤内藏助心を決して
古主新五郎長龍を撃

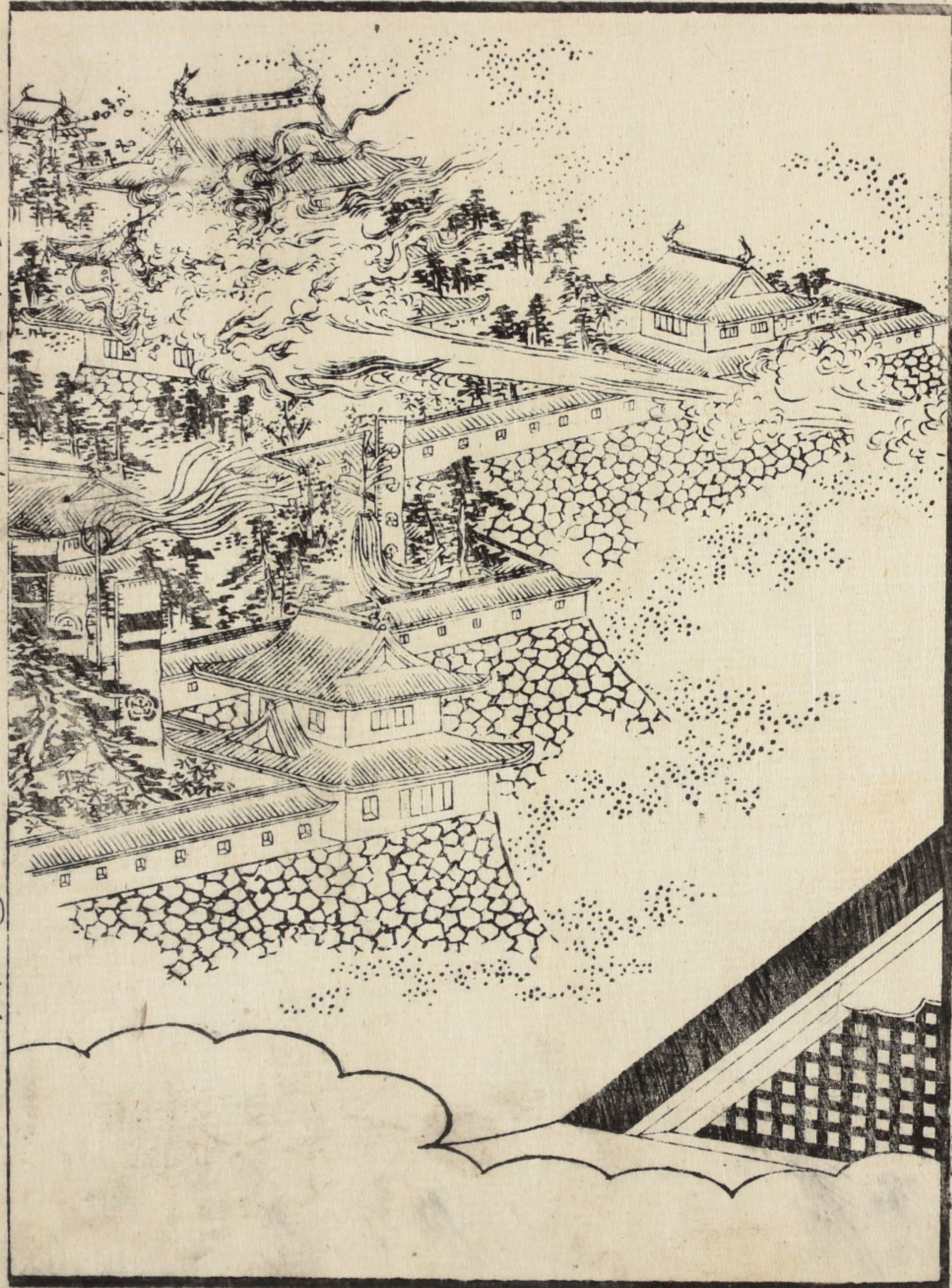
豊臣自言五藏助三

敵より革負城知らば。織田信長ハ明智光親ヲ殺さ。又十郎長利ハ敵後
 利三に撃れ。其外勇士四十八人。被率を合せ。一百廿有餘人。三かひに於て
 敵死して。明智方にも。残負死人三百餘人。遠响中將佐忠卿ハ。三つう。敵城斬
 のふ。と。廿餘人。所身も。演。演。二口負。自勢を繕めて。城中に。退入。る。是。中
 將敵の籠に。敵。敵。新。新。長。龍。ハ。原。道。三。が。孫。中。一。七。右。系。右。支。龍。興。此。身。た。り
 法。別。平。治。あり。と。た。遠。長。龍。を。織。田。家。に。為。す。敵。后。の。家。を。三。し。め。る。が。新。又
 希。も。五。名。は。して。よく。佐。長。公。所。又。子。に。仕。へ。る。由。を。承。え。る。年。中。將。敵。不。所。属。し。け
 れ。長。龍。ま。ま。く。琢。磨。して。今日。の。期。に。及。び。々。然。バ。方。僅。六。七。君。恩。を。報
 せ。ぶ。と。時。節。を。れ。と。必。死。を。期。て。擲。て。出。た。不。由。右。に。も。叛。逆。人。の。光。秀。を
 敵。捉。ら。る。や。と。仇。取。者。不。目。由。属。は。明。智。が。旗。本。一。近。侍。人。と。親。鯨。の
 鮮。魚。と。驅。が。像。く。敵。起。て。明。智。が。先。陣。と。擲。破。て。二。陣。の。隊。伍。一。突。投。ら。ん。と

ま。る。と。こ。後。へ。比。田。常。刀。が。身。同。苗。七。藏。氏。則。片。陣。の。餘。推。把。て。敵。后。長。龍
 に。突。て。蒐。る。新。兵。亦。復。類。然。と。鎧。を。交。へ。三。連。を。り。死。合。し。て。先。陣。長
 龍。が。烈。勇。に。を。り。さ。り。と。敵。を。奮。て。唯一。刺。は。期。滿。され。起。懸。ら。ん。と
 する。と。あ。ら。を。噴。と。声。け。咽。輪。す。り。襪。付。た。あ。ら。ま。で。鎧。脱。白。く。突。搦
 たり。勝。不。慮。し。て。新。兵。亦。日。向。馬。次。と。む。と。懸。り。敵。士。皆。逆。記。進。し。け。り。と
 遠。响。田。主。天。改。孝。ハ。中。將。敵。の。邊。を。入。眼。を。繕。ま。び。属。投。は。して。た。く。と。城
 中。一。洞。入。り。長。龍。遠。よ。これ。を。所。見。都。々。至。君。の。所。交。連。も。意。解。か。し
 退。返。さ。ん。と。馬。次。濟。し。て。城。を。く。地。た。り。々。の。淺。敵。后。内。務。介。利。三。城。兵
 夥。敵。投。く。猶。城。内。一。馬。投。ら。ん。と。進。む。馬。次。一。長。龍。が。最。英。輝。子。退。返。と
 成。これ。良。款。と。馬。次。進。せ。近。づ。き。祝。も。不。叶。や。と。也。推。瀧。子。着。記。あり
 古。重。奇。藤。新。兵。亦。長。龍。敵。ま。あ。を。と。ぬ。う。一。旗。か。ぐ。敵。后。内。務。介。利。三

見冬どくを聲四けらる長龍城中もむりり示給弁にゆき
 れバ馬亭濟して身替をて逆城の智に組する内務分一旗極と織
 とり不修も電の儘く突進と成内務分八有係子。主家此恩義に脱
 由きてお刀急送の後々れば勝負に渡境を以てころ一魁軍ははく
 長柄刺の致率一入横際より新ぬ部が草摺を成視徹して繪操
 一腰より肚へ三尺をうり鍋徹と長龍勃然と憤怒をし。たも
 制手より疾く腰へ鶴を了。繪能を千段巻より硬拵へ。長柄刺の致率由
 不利なる知察されば。子猿もる後の様を。新ぬ部々馬の前足と横
 擲を突止ころり。歩をく馬ハ膝を折く。長龍落人となし。ろろ痛
 いたぬら。足踏首へ。俛ろ。標子。塊の朝練を。扇を搦り。致利三様
 馬並進せ首の致を硬放す。致率速くも首致拾く。狂出き人とさる。致利三

馬より跳下り致率分。首筋捉て。致と脱ぐ。不礼過より。咄撃
 捉うる。この致と奪う。くいのく。齋行を。答む。致朝弁。を。宣ふ。を。遠
 款へ。小夫が。鶴柳。て。馬足。を。倒。され。ば。あ。そ。足。下。も。容易。く。首。段。ぬ。らん。致。と
 是ハ。功。量。ハ。咄。ま。あり。と。つ。と。利。三。新。ぬ。部。軍。法。を。知。る。奴。ら。を。さ。り。て。功。量
 と。あ。さん。と。お。そ。つ。款。致。見。越。く。通。合。致。を。く。そ。功。量。を。れ。今。遠。款。ハ。咄
 通。名。く。致。分。最。中。と。は。が。鄙。怯。小。虚。を。致。を。く。横。檢。たり。臍。响。が。致。を。く
 致。と。拾。う。功。量。致。を。さん。と。一。合。を。り。と。も。長。孫。を。喰。して。取。を。知。る。を
 德。新。児。面。強。く。もう。子。致。掬。ら。ん。と。呵。着。ら。る。致。率。も。遠。理。小。服。して
 致。と。搦。せ。利。三。致。く。小。袖。の。下。より。馬。ふ。うち。孫。退。さ。り。備。亦。城。の。東
 此。方。へ。向。ひ。一。進。軍。ハ。村。と。和。泉。守。以。重。海。尾。庄。を。清。後。朝。山。本。對。馬。入
 道。山。入。村。致。三。十。部。系。別。波。く。伯。都。禮。頭。貞。次。同。小。右。吏。貞。之。傳。子。餘。人



二條の城を
砲裂す



光俊
指揮し
近衛殿の
屋上より
二條の城を
砲裂す

豊後守五郎

後北よりも猶もさるるに、橋本探で攻起るるが、遂に外防謀を露破り、統
 三小勇で我より、當方を拒抗勇士と、猪子兵助信好、因平八郎宗右
 村井長門守父子三人、あまつらの兵士百餘人、水も湯にかり、磚も火もさる
 らるに、我ひるるが、魁をうけける猪子兵助が、一期を看まる當日の、猪相を志
 華威の大獲也。同系朝の顔形、此魁三天四寸の太刀お振、左方を當て、頓投
 へ因平八郎、左系宗近のまかり、又宗近八百松院、晴公の軍師より、しがね軍、八百系威の
 甲冑に、石も猪子より、似たる。三天四寸の利刃、及小く、瀑布に、露も當るが
 像く、進兵の右方を斬起、二猪相並で、殺奪したれば、昭智の勇士、神長太
 兵衛房武、村上和泉、呼獲、す、此基石武者、哨の、黒さと、擊、投人と、喚て、出、
 ば、その、眼より、比田、帯刀、利家、哨、八百、を、刺て、や、人と、薙、刀、お、振、馳、向、ひ、雙、方
 四勇士、十六、蹄、沙、踏、踏、立、小、石、を、抛、起、八、の、属、肩、甲、廿、八、の、系、摺、も、と、も、子、難

一、橋本の火
 二、橋本の火
 三、橋本の火
 四、橋本の火
 五、橋本の火
 六、橋本の火
 七、橋本の火
 八、橋本の火
 九、橋本の火
 十、橋本の火

飄くこと、鎗、鈍、刀、鈍、鈍、と、世、士、の、烈、我、さ、か、が、う、に、那、羅、延、神、が、二、羅、刹、と、黃
 土、成、争、ふ、如、く、あり、神、谷、の、猪、子、と、橋、我、して、遂、に、兵、助、を、擊、投、バ、比、田、の、渾、身
 此、力、を、揮、ひ、漸、く、圍、を、刺、果、せ、り、村、井、親、子、も、遠、隊、を、去、り、敵、兵、多、く、擊
 投、て、亂、軍、中、に、我、死、せ、り、斯、の、如、く、名、を、た、り、勇、士、野、擊、頭、を、と、り、と、も、城
 中、に、の、を、と、三、百、餘、人、と、び、く、防、に、我、た、れ、ば、急、に、落、城、さ、す、く、も、見、え、び、攻
 倭、で、在、る、が、明、智、光、俊、指、揮、し、て、い、ふ、や、り、意、得、さ、る、あ、今、日、に、我、敵、不、勢
 自、方、の、大、軍、一、討、も、攻、乾、づ、き、も、動、バ、自、方、の、兵、革、色、失、起、り、は、ま、さ、り、く、
 公、威、も、恐、る、も、もの、あ、ら、ん、茲、に、究、竟、の、事、こ、を、い、は、さ、當、看、よ、西、北、百、步、の、う
 ち、小、高、く、聳、つ、殿、張、橋、あり、を、清、教、の、下、二、条、の、城、を、眼、下、小、看、却、し、事
 謀、計、も、最、も、妙、あり、斯、く、せ、り、と、令、じ、る、に、ぞ、諾、得、たり、と、三、百、餘、人、縁
 て、光、秀、が、系、統、の、秘、術、を、と、り、と、學、得、た、れ、を、ま、け、彼、敵、頭、も、走、上、り、大、石



二條の
 城陥没
 信忠卿
 生害

世目言五條卷之

十一

砲成懸垂て二条の天守城眼下に現ひ。砲と放るる鐵城もあどろ保つあこ
 を得人覺積。練登中を激震よりあろ飛散るとあ砲を三百餘人衆手を連
 袂。大矢を流成射菟撃菟。息成もはぐ拵さるにぞ。天守一圓も燃より。
 烟脚散りて。都率成も焦とく。爆声奮々。湏弥鐵圍をも崩入ん。聆
 けり。あ見え。城兵あやの子孫を防ごう。てぞ見え。けり。
 進まあまも勇氣成増。まもや落城遠時あり。進めくと呼。うく。ま
 込あどろ遮る兵あく。二の丸例を推極り。あ中將敵の忠臣も誠智
 小十郎利高。大和國多取の城を誠智。とつ。大別れ壯士あり。信忠卿の弟
 に祇候。慎で言状さる。今もや既。自方の兵士半を過。敵死
 孩兵あま疲勞。堪。按。憑。微。子。見え。方。僅。の。河。運。の。期。あ。人。小
 居。最。期。の。一。戦。て。款。を。防。ご。ま。あ。る。ま。を。危。な。れ。其。際。小。使。く。河。原。を。め。さ。せ

ありと氣むもぞ中將敵。愉。快。氣。小。答。を。を。の。ひ。响。を。怒。を。思。ひ。成。と
 て。血。涙。に。て。持。の。ふ。難。刀。此。益。を。拭。を。を。の。ひ。汝。今。日。よ。我。を。備。生。命。を
 全。ふ。せ。も。永。き。世。の。遠。志。と。さ。し。を。保。命。ま。あ。り。と。懇。切。小。令。せ。る。も。
 波。難。刀。成。獨。り。々。ま。バ。利。高。の。備。流。洞。を。さ。え。難。刀。を。受。く。あ。い。て。た。く
 河。運。の。渡。橋。の。あ。い。と。く。在。り。ま。い。唯。今。之。逢。の。川。波。を。小。居。備。置。り。つ
 る。の。り。真。途。の。供。奉。此。魁。か。さん。と。勇。猛。て。ま。り。出。本。老。の。國。風。あ。り。も
 だ。誠。智。小。十。郎。利。高。が。若。思。に。報。ふ。未。期。の。軍。遂。滅。明。智。が。陣。中。に。真。代。成
 士。の。あ。る。あ。く。向。ふ。く。伏。よ。と。大。聲。呼。ぶ。呼。ぶ。も。舊。地。の。安。心。獨。釋。獨。さ
 敵。中。を。面。も。振。ら。び。頷。て。迎。ま。い。それ。翻。止。ま。と。數。十。諸。が。後。の。衝。先。を。踏。踏。返
 系。より。控。く。難。敵。を。面。を。一。連。は。捕。圍。め。よ。を。は。け。ま。と。龍。骨。車。過。冬。款
 成。轉。と。斬。流。した。る。悍。勇。ハ。當。里。ぐ。く。を。見。え。る。と。あ。野。口。又。花。の。長

豊日言五巻之八

十五

利三と通号、徳を以て鑿て突とを造る。低身に在頭之樓着し、越智由我
たりと通号、徳を以て鑿て突とを造る。低身に在頭之樓着し、越智由我
勞たるもや。あそれ野に敗る。逝年女一歳なりとぞ。然るも中将
信忠卿今の斯くおなりし。前田徳光院主以法印、勝下唱され汝の
命、全やしいかえさしと、相因を脱出安んずるに對り、三法師丸を初と
し、女害を避懐かきしめ、命を救ふるは、秀吉と力を勸せし、遂に城を
る。光秀も、後法退伐し、又と我との怨魂を、吊らせしと、宮ふも、玄
以、敷行此洞、又嘆び、謹て命法僧し、城を去奉じて、敵の相を、抜取、川安
去城、而して速行たり。信忠卿、方僅くもや、心実しと、藤田正次に、勅、前
あ、と、後、命、せし、是、後、後、弁、雙、賊、寇、は、勝、十、文、字、に、接、刺、て、藤、田、正、次、に、呼、み
つ、た、正、次、は、河、邊、終、り、河、首、を、撃、た、て、ま、川、上、河、邊、言、の、如、く、首、級、を、河、中
へ、抛、入、り、他者、亦、に、藤、田、が、後、を、脱、出、す、大、將、河、邊、宮、ま、り、く、の、を、城、中、に、

兵、我、ハ、敵、と、相、刺、殺、ハ、殺、手、を、或、ハ、自、殺、し、兵、士、離、卒、お、か、び、く、六百、之、十
有、餘、ハ、我、死、し、て、ど、果、た、り、る、明、智、方、に、由、此、は、準、と、て、残、負、死、人、一、千
八、百、有、餘、人、當、日、未、下、刺、終、り、藤、田、正、次、は、河、首、を、撃、た、り、响、中、將、信、忠、卿、逝、年、
女、六、歳、ま、り、お、た、り、る、と、ぞ、遠、君、い、ま、ご、河、邊、早、く、お、た、り、た、れ、ど、も、武、將
此、若、き、備、里、の、ひ、礼、を、乞、ひ、治、り、も、其、功、屢、お、た、せ、し、な、し、天、命、強、ま、り
中、將、信、忠、卿、の、死、た、る、を、知、り、遂、後、の、い、ま、早、世、の、い、ま、呼、呼、牌、し、い、ま
大、臣、と、い、ひ、中、將、若、き、ま、り、一、時、に、滅、亡、を、さ、し、め、治、り、光、秀、ハ、是、何、者、を、や
熟、く、後、事、を、繼、り、ふ、天、光、秀、の、存、在、を、り、此、天、下、を、一、つ、て、豊、秀、吉、に、揚、ふ
あ、ら、ん、
光、秀、入、妙、心、寺、料理、可、儀、馬、安、去、退、城
花、あ、る、枝、を、折、た、り、人、お、わ、ひ、は、是、後、事、を、一、つ、つ、も、葉、を、一、つ、つ、折、

建武二年五月

と死を。薪の外は用をからん。然れども明智日向守光秀の六月二日未明
より。赤の下剽頃までふ。本願寺および二條の城を攻陥し。後田家御父
子成撃し。その中よりて城の聲を統の音烈し。されば禁中いふも更なり
洛中洛外に及ぶま。發動する聲あらず。かゝるに貴族老幼恐怖を懷
て嗚叫び。親皇子を棄。夫の婦を顔泣呼懼す。や生かざる。修羅の苦街
に流るる。と東西南北も迷走す。それがあらずも本願寺に未寺とい
宗旨交連此寺より。天災衆ま。流伸する。獨小掃の齒を扱がれ
。平安神護の禁中い。在とい。いなる凶衰あ。人か。内裏守
護れ。食官小面十二の門。城固り。亦敵上。白大長。掃家清家
月卿雲客。主上。城衛護。し。そま。新。當日。維。渠。須。明。智。光。秀
が諸軍勢。凱歌あ。けて。三軍。倍。に。修。集。し。つ。一。急。下。之。賣。の。妙。心。寺。に。退

公光秀
心寺一千四
相堂令城
住けり
毎月の
風入派
金百
とも

陣を。豫て。光秀。天下。城。推。する。立。心。の。愛。宕。の。連。袂。不。顯。然。し。れば。此。期。に
及ぶ。とい。さ。とい。ども。唯。人心。を。計。らん。と。あ。ず。不。背。然。する。氣。色。成。し。多。年。に。忍
も。戚。却。し。う。と。獨。を。控。し。唯。獨。金。仙。殿。の。中。央。に。禪。座。し。積。久。し。く
礼。拜。して。硯。筆。檢。把。り。禪。世。と。か。が。し。一。聯。の。句。を。書。記。遠。响。傳。を。子
孫。系。に。給。仕。し。在。り。に。雜。僧。を。ろ。ろ。光。秀。の。面。色。を。覺。り。今。書。記。し。ハ
禪。世。の。頌。ま。や。何。ん。と。書。院。の。方。へ。乞。出。く。比。田。帶。刀。三。宅。式。部。子。若。し。に
か。ば。人。懐。疑。さ。り。も。危。馬。分。解。を。体。ふ。く。急。ぎ。光。秀。に。前。よ。來。り。詞。を。齊。し
く。信。く。い。や。中。新。ハ。新。法。慮。を。り。今。更。は。粟。也。由。佛。下。の。後。經。を。り。傳。聞
か。る。湯。王。を。夏。の。辰。と。七。集。旦。に。暴。を。惡。ま。る。是。城。放。ら。武。王。ハ。殿。の。疾
く。是。ども。村。豆。の。邪。を。征。し。羊。奴。趙。有。其。君。を。執。し。これ。ども。極。民。治。國。の
道。ある。と。り。て。孔子。も。あ。れ。を。載。送。を。り。六。宣。を。り。り。今。ま。の。あ。く。り。喜。尾



光秀
妙心寺
投
諸士の
心中を
試む



為素上松房我を謀殺して。系勝然後に讒然する。臣の身にて云道
 此君を殺さる事。和漢の例をくやうべ。是國臣成安人なる。英雄豪傑の
 志あり。然るも目今。主君の模様を視て。その心も亦所覚期の量こそ元
 がく。唯只所身の万全を。單にかりてせらる。大張都子旗を揚て。扶
 桑の言もあろうなり。夷狄の情も至るまじく。心成を遂ゆ。天下の民を安
 うしめゆ。所料理こそ存ぞうと。われと。理をさして。を謀りて。日向
 も實に然り。と。公整せし。相親と。然る一。政勢を。子執行あり。と。
 言々の。馬助を。殺して。各安達之恩を。以て。先秀。遠胸自殺せ。を。
 切く。その。憐れ。熱。凍。子。ま。う。せ。死。を。止。り。子。逼。り。て。去。氏。の。子。子。懐
 念。我。零。せ。し。事。ハ。固。あ。る。る。果。なる。る。其。身。り。と。外。人。ハ。漸。り。評。は。る
 多。う。り。け。里。然。バ。今。日。の。事。ハ。い。く。禁。庭。を。く。戈。戟。を。鳴。ら。む。る。条。も。

思惟を。た。し。も。何。れ。を。使。者。以。内。裡。に。なり。て。使。く。天。氣。と。何。し。と
 妙。公。寺。の。典。司。に。余。に。奏。報。洋。子。東。一。合。め。参。内。と。あ。せ。を。た。ま。は。其。初。に
 り。先。秀。豫。く。奇。謀。と。り。し。近。清。殿。を。と。づ。ま。の。せ。矣。略。く。執。投。け
 れ。バ。種。家。公。も。先。秀。以。容。易。昇。殿。を。う。り。て。龍。顔。と。拜。せ。た。く。を。以。累
 を。計。ら。れ。ぬ。と。二。条。此。昭。家。公。舊。司。の。房。通。公。を。と。り。成。代。許。諾。し。ぬ。ん。上
 又。所。以。に。お。ろ。ま。せ。を。殿。下。に。お。つ。く。天。盃。と。賜。る。ご。に。津。許。定。さ。ま。り
 ぬ。湯。と。と。ら。り。妙。公。寺。に。役。傍。二。人。参。内。し。て。傳。奏。難。波。中。納。言。宗。重。卿。子
 活。さ。ま。の。か。せ。謹。む。先。秀。の。奏。詞。と。言。し。た。く。ま。の。今。日。惟。任。日。向。吉
 先。秀。奉。給。寺。を。う。び。に。二。条。の。謀。り。を。徳。田。家。父。子。以。擊。投。り。軍。勢。強。ら
 び。妙。公。寺。に。退。去。し。か。ま。つ。り。の。趣。名。先。秀。を。い。く。参。内。を。遂。天。慮。を。伺。ひ。と
 て。中。門。を。さ。り。れ。ど。も。今。日。の。合。戦。に。血。を。泥。し。衣。服。此。穢。は。思。色。何。れ。ハ。雨

地妙公寺の没傷をそく奏聞と遂にそまう人をも。开も光秀が執意とい
つむ。信長公威を逸恣に。神明佛陀と怪し滂り。佛地法園と燬破川
るとい奏せびとも膏けさる。とら偽なり。増てや諸民は慈育かく道の通と
ることかたとりて。光秀借に信長の旗下に属せといども。三代相傳の主小
をいへ。別や姓を異しして。光秀の清和の流を續く。後光衡源頼光後流
の末なれば。正しく朝廷の臣家なり。亦信長は平氏なる資盛の子孫なれ
ども。斯波義廉の臣家なり。然るに権威と諸侯の上は。張橋して惡逆
日夜は。權長したまへ止るとを得。天下にたれ。光秀も是を謀し。平
ぬ庶希へ光秀が赤心と監察多し。四方運遠の國に。以て征伐許し。む
らば。不日に天下恭平と。奏聞と。とを舒たり。宗を御熟耳听し。め
され。這条とりて執奏あり。後日勅定。沙汰正しと。命傳され。何うをれ。使

儒の因に拜謝し。川も。寺小降りて。光秀に。斯と若き。バ相。智。是。從。勅。宣。い。か
に。と。片。津。し。て。其。熱。ハ。休。息。中。たり。備。光。秀。ハ。二。日。の。夜。責。の。魁。と。過。る。當
天。着。回。佛。ハ。と。近。く。昭。傍。事。察。して。簡。要。の。宛。と。失。念。した。り。據。て。汝。ハ。疾
を。の。功。あ。る。に。依。り。技。助。の。初。に。花。法。畢。たり。遠。遭。大。事。ハ。使。者。以。て。汝
に。領。命。な。れ。を。換。へ。て。過。失。お。と。な。れ。今。中。國。ハ。羽。常。秀。長。毛。利。之。家
と。對。陣。な。れ。唯。毛。利。家。に。内。應。し。て。相。策。以。狹。擊。人。と。お。り。汝。波。地。二
登。敷。子。奇。着。着。唯。方。僅。あ。る。小。書。記。た。る。内。應。ハ。折。簡。と。も。ろ。く。使。徹。に
若。川。小。早。川。兩。將。の。て。一。相。通。与。唯。公。底。を。も。浪。況。を。一。努。り。將。策。が
多。密。に。祝。出。さ。る。事。な。れ。と。心。腹。責。て。命。じ。け。色。ハ。傳。八。仔。細。心。裏。听
膜。評。ぞ。と。毛。出。原。來。流。通。に。知。る。途。上。神。仙。天。狗。の。形。も。七。河。り。け
人。氣。より。彼。中。を。松。ま。を。行。程。七。十。り。の。長。途。を。一。晝。夜。し。て。毛。着。し

とぞ妙心寺此取禪の至出中して同日の午に到る以江明去云の城下
 下後六を以て風聞一々其明智光秀君に叛して大治清又子清生
 害すはせしよし。傳はる言雖一市中珠玉若劇目妙を袖ひき奇光し
 々々とも天下此大事ありをれを通互は忠慎として何とも伺ふ出され
 因事あると限りなし。尤右ふ未の下刺となり。故光士次取此来り。城更
 り我見るとふ。市中ましく驚愕をし。斯の底事のみをやと故光士がとに
 同訊れど地通るここの疾をれば定決し聆取るもなくとせ下して嘆動し
 て。雲泥おも看惑をありあり。此においしく去去取代痛生右去清大吏賢
 秀光黨外池甚むた清つ成はさうて。城下の街へ洵をせ々々西河所の
 河城明智日向ち送むよふと今朝京都においしく河生害すくたり
 然とも常河城此事小おといしく珠玉賢固より。城下の民衆嘗て騒動

づかづか馬務廻して制しなれば。あま代輪より街々の光幼男女衆騒揚
 て。呀あまや又母れ懸うりもを成源之君を光秀が越えしそす川りしと
 や。然それを見世まもわおとさぬ。後をなれが。果あわわと泣悲む巻
 境に満満て。哀き悲みそのかうり。親をた其責業責まら。斯ひまぐ
 慕ひまわらまらに。況や右大は此殿室のまうらもあら。近士危徒使車か
 ら。後堂嬪嬢婢女もあらまら。暗夜の滅燈海上被服のかまひ成かして悲
 哭泣泣楚てを羅む。おも程ふをうりあり。中にも殿室の遠城の安危もつ
 かわくおがしめ。蒲生賢秀が居城をる日野河遊去河より。屢命む
 是々んも。賢秀固く制しまわらせをんせう其城におよびまら。唯遠
 城を捕らうて。防戦まきくひこの城と。さあぐ東狭めまらうせ努て供養さる
 其中に遠尾あうりの奉命武士の遠強動に聆怖して。各妻児族類を伴ひ。

かまひく小登乞此等。當夜の雲河過り頃山清源を虎御門遠路初小礼
 人むすもや。或も先秀に恭接せし。自己が郎を焼掛ひ居株山清へ逃去け
 里。あれふよ川へ浦生賢秀。恭び思慮せしむ。備士此心おまひくは
 離散あてハ防戦むかひもよふ。遠上ハ唯選城とて。嚴室正胤
 女房達小も。その沖準佑をさせまゐらせ。牟尔日野へ使士派乞ら
 せ。遠赴坂傳口を。翌日子息忠二郎沖進して。橋興五十駕馬百匹驛
 騎うれおき二百餘匹。牽せし安去つ悉とて。賢秀大子歎息を。翌日
 の未明より。當城退去せしむ。さ成と。上下此人に解示し。今夕。遠路嚴室
 女房達今遠城を退入し。金銀珠玉を拾收取て。城は火放焼弁人
 やとありたるを。右々城を夫頭とて。棹大匠を。沖公成。燭をせられ
 た。白太守とて。那樓遠園子。おるま。天下を雙の橋掛を。成賢秀

一個の了簡城をて。一炬にこれ焼弁人。こと物新を。此こと。おる賢秀の
 人子似たる禽獸に。此を。燒弁人。おともあらん。継令橋で。燒去。自己が有
 とを。と。天命を。人。淹。らん。や。ま。つ。村。室。金。銀。八。使。て。拾。收。せ
 ま。う。ま。は。し。小。臣。怨。不。意。成。以。て。嚴。室。を。選。城。を。さ。し。ま。の。と。せ。令。報。珠。玉。を
 採。取。し。嘲。ら。ま。る。を。最。巧。賊。を。ん。ま。る。を。唯。遠。来。子。う。ち。捨。夕。こ。本。村。治
 希。在。湯。つ。に。城。を。探。し。日。野。を。當。て。を。急。せ。る。備。亦。明。智。先。秀。ハ。二。日。此。卯
 漏。の。响。く。小。先。ご。ら。左。馬。助。先。後。又。指。揮。を。傳。へ。大。將。の。職。を。掌。ら。せ。江。州。安。土
 を。奪。も。せん。と。ん。あれ。は。後。ふ。勇。將。に。は。善。本。山。城。古。江。重。同。友。之。近。重。伴。妻。本
 長。子。頼。範。賢。臣。王。天。又。是。清。政。実。今。岩。新。助。赤。正。頼。母。の。三。宅。周。防。官。業。朝
 武。敏。の。孫。み。千。餘。騎。に。川。當。て。表。向。を。是。より。先。に。橋。下。此。城。を。二。日。先。後
 守。同。對。馬。守。候。へ。使。者。を。遣。し。自。方。た。し。む。び。さ。首。領。を。送。る。こ。の。心。を

皇正記五編卷之八

七二

細川藤孝
父子義氣
鍊石の像
あし
光秀
荷膳
せす



つども 是山屋射馬が女をとりて 山屋兄弟右大臣に恩澤成りしゆをりて
 の智光度取女と云約あれん
 有て光秀が逆意も勅せし 叛逆を大に急そ 忠義とて却て使者に
 首級切 勢田の長橋を二十間をうり 燒陥し 道洛城塞に防戎の準備
 せむとつども 僅も其勢三百に足ざりし 明智が勢を遮らんとの難
 しく 逆子甲斐に山中へ潜まりぬ 是に依り 此隊の大將左馬助光俊 橋を
 まぐ進きて陣と布バ 冠軍北勢の瀬田の橋に 燒陥するその蹟へ船を連
 綿く浮橋を修せ 容易くお訴うら 渡里 若もかく 妻と推進たうた
 馬助も謀り懐いし 炮矢を次取し 列伍を安土の城を治さるれども
 當て遮るる兵士をかく 勝城番木村治昂 北邊門を 敵討をしく 盤ぶ
 まくと 城を捨てる 零行なるに七 千戈を交へ 城を奪取り 金銀珠寶を
 采ふ 元満したる 城光俊見て 痛生を 舉止と大に感し 金銀珠寶を 數代安土の

民家に分與て 國民をなづけ 若者の類に 坂中此城これと 愧ふ 光俊
 其身の安去も 倭し 七河川の地を治めんと 高嶺をかくて 光俊和
 山の城への 荒木山城も 父子が 敵をせ 長濱の城も 妻木主計 河内万
 石 渡路守 せり川を 守らしめ 其の 弁美作の 六角をも 三時がうらに 破
 りて 河川を 平治し くれを 大將光秀一 無安去と 扱入し 次取る
 と 所をんと 日夜に 心を 累煩し たり

細川藤孝 全義 不勅 光秀 属 忠興 玄妻

救此の 最良を 逆峰 謀の 謀を 幕ふ 忠類と 斯邪正の 性あり 人間い
 うを 曲を 此か ありんや 茲に 丹後 義治の 謀を 細川 刑部 右輔 藤孝 同 与市
 弟 忠興 父子の 強を 榮久の 祖たる 徳を 踵るの 兆 顯き 義の 雲 長 計 魏 國
 を 出る 時より 強く 嫡子 右興 四年 己未 光秀の 女 誠室 不迎 歸され

是日日向守と六味わらざりし縁ある故り。先秀三日の辰明智を介して
 出し、孫孝父子が縁故を倍り、決定自方になりぬ。後々れを快くして、既諭し
 自方に属すと太刀強備、金銀など質多く齎せ。丹後の國義統の憾一遣
 へる。其口竹小我他年信長と子討し。怨懐の釋少なり。然りとて
 ども、是たるは道と有り。敢て怒を費さるとなく。まさしく忠誠を以ては孫
 信長却て誅せんとす。何んが忠に止む。先人をしてこれを制し、昨ゆる言
 系統においし。神父子ともは裁し、年ぬ。然るに、縁故たるは好親を捨
 び、力強勅せよとて大流渡りあるべし。其報我らして、高領丹後のい
 をさうなり。但馬若狭播磨越前傾せらるるに、なりと、新に成聽て細
 川父子魂消るまで大に驚さ。或は嘆息或は怒り。使者小向を、聲成
 烈す。裂帛するまゝ罵て曰。俺們親子年久しく信長公に恩義を蒙

里。今世のあつり丹後の主として。妻子後類安住するは是命在府
 の意なり。彼や先秀も亦君恩に澤すること、吾も亦一。然るに、不義其欺
 謀を後け、君を殺する叛逆人。いかに勅力する所縁に、人なり。汝も明智
 が後類なれば、忽ち地撃て去るべきか。使者に來れる報も免れ、宥恕を加
 へ、助命をなれ。速く帰望し、遠有せ。主人は信長を慮し、清水盤にう
 やくしく載て撃とせし。信長は尤是揚て、洞庭へ撲他と、絶死し。其来り
 産を起揚りて、廳内に投り。素氣なく、紙門を圍断り。使者に來りし、明智
 兵助大に恥、徹顔面して、遠く去りて、逃歸りぬ。若るも忠興が室と、する。過年
 天正七年此春、十六歳にてあに嫁し。今既、四年を經たり。遠女を、此牌く
 勇かるる。殿父先秀も、若るも、温存さぬ。岳父孫孝に較ぶ
 や。待秋、達し。系竹に、親し。我孫、ハ、殊に、縁故して、宥免、最、憐、たり。され

がたあふ忠貞も国情恰も漆膠にして。紀勢津島の契冷ららざりしが元秀叛
 逆する候もて。義信これ小親とめづく。右奥郡地小妻を呼び不佞や女今
 あり。叛逆人の娘なれば武士の妻とまらば縁故なり。使と遠取を去廢しと
 元秀しりの守勝。池田六左衛門一色宗右衛門。窪田治左衛門。細川氏に扶けさせ丹
 波に國之戸野といふ山里まで送り歸せり。三戸野の義於。細川父子が義烈の不
 と親。聞人おとふ感稱し々々。其後天正二年の義秀が公の命に
 よりて藩の如く迎へて置とせしむ

繪本豊臣勲功記五編卷之八終

